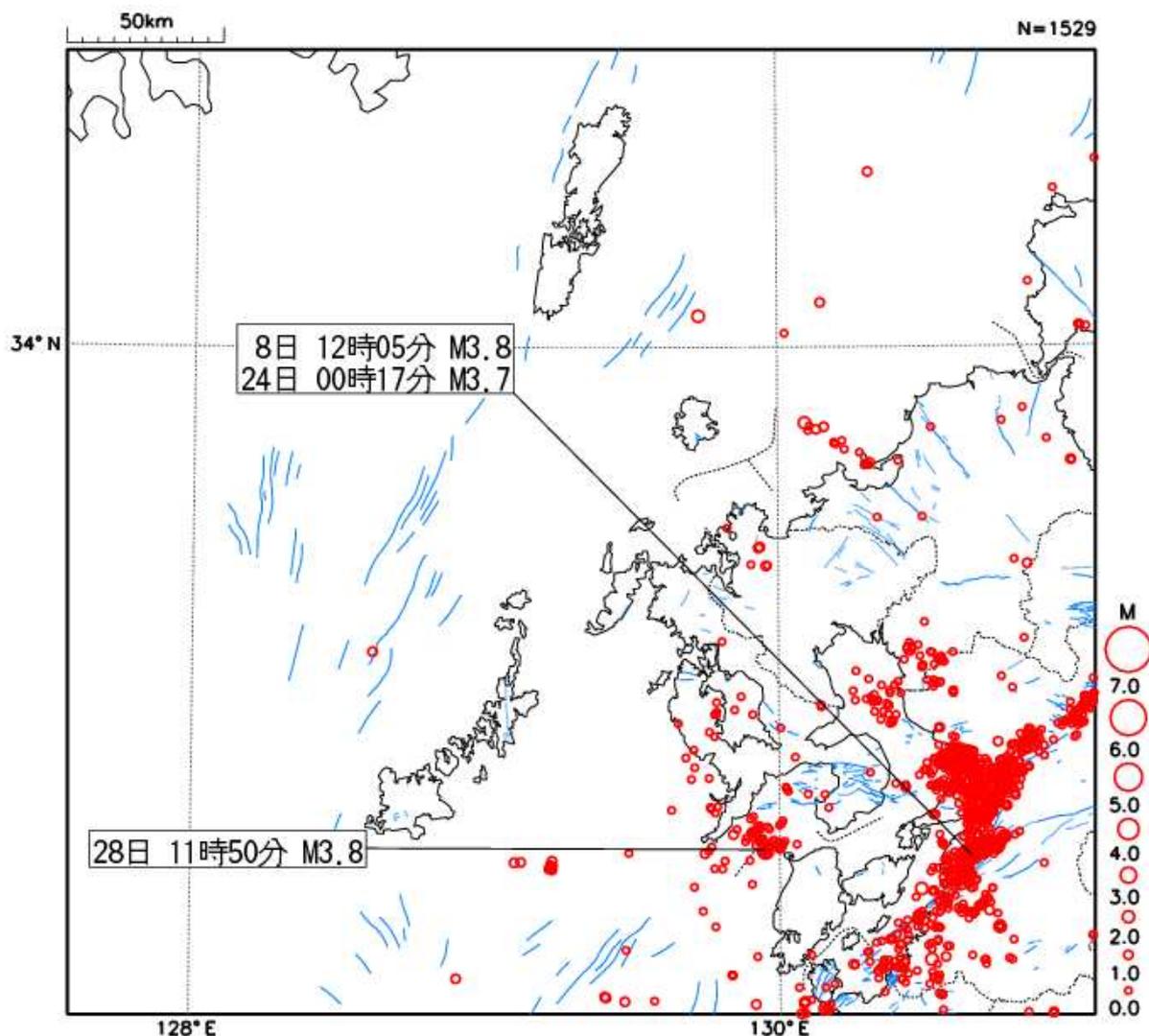
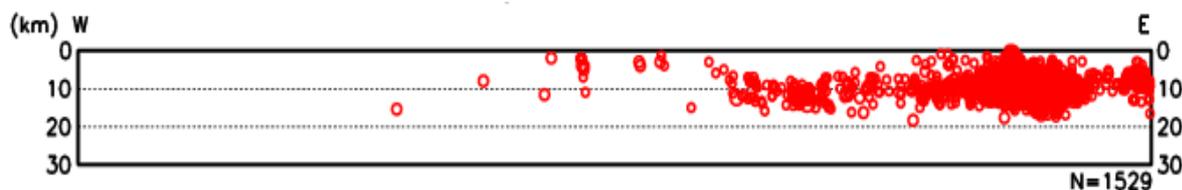


長崎県の地震活動概況 (2017 年 10 月)

平成 29 年 11 月 10 日
長崎地方気象台



震央分布図 (2017 年 10 月 1 日 ~ 31 日、深さ 30km 以浅)
(長崎県内で震度 1 以上を観測した地震に吹き出しを付けています)



断面図 (2017 年 10 月 1 日 ~ 31 日、深さ 30 km 以浅)
(震央分布図を南の方から見た断面図です)

本資料の震央分布図の青色のラインは活断層を示す (活断層のデータは新編日本の活断層による) 。
本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点 (河原、熊野座) 、米国大学間地震学研究連合 (IRIS) の観測点 (台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東) のデータを用いて作成している。

地震活動の概況 (2017年10月)

10月に長崎県内で震度1以上を観測した地震は3回でした(9月:1回)。震央地名は熊本県熊本地方、天草灘でした。詳細は以下のとおりです。

平成28年(2016年)熊本地震

8日12時05分に熊本県熊本地方で発生したM3.8の地震(深さ10km)により、熊本県で震度2を観測したほか、熊本県、長崎県、宮崎県、鹿児島県で震度1を観測しました。長崎県では長崎市、諫早市、雲仙市、南島原市で震度1を観測しました(図1)。また、24日00時17分に熊本県熊本地方で発生したM3.7の地震(深さ10km)により、熊本県で震度2を観測したほか、熊本県、長崎県、鹿児島県で震度1を観測しました。長崎県では雲仙市で震度1を観測しました(図2)。



図1 震度分布図(観測点別、×:震央)

8日12時05分 M3.8

図2 震度分布図(観測点別、×:震央)

24日00時17分 M3.7

表1 これらの地震により長崎県内で震度1以上を観測した地点

No. 1	2017年10月08日12時05分 熊本県熊本地方 32° 31.3' N 130° 39.3' E 10km M3.8				
長崎県	1	長崎市元町*, 諫早市多良見町*, 雲仙市小浜町雲仙, 雲仙市雲仙出張所*, 南島原市口之津町*, 南島原市南有馬町*, 南島原市北有馬町*, 南島原市布津町*, 南島原市加津佐町*			
No. 2	2017年10月24日00時17分 熊本県熊本地方 32° 29.1' N 130° 37.6' E 10km M3.7				
長崎県	1	雲仙市小浜町雲仙			

注1) 震源要素(緯度・経度・深さ・M)は、暫定値であり、データは後日変更されることがあります。

注2) *を付した地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

注3) No.は時系列順に付しています。

天草灘

28日11時50分に天草灘で発生したM3.8の地震(深さ13km)により、長崎県と熊本県で震度2~1を観測しました。長崎県では長崎市と諫早市で震度2を、平戸市、雲仙市、南島原市、時津町で震度1を観測しました(図3)。今回の地震の震源付近(図4領域a)で発生した地震により、長崎県内で震度2以上を観測したのは、2009年5月31日に発生したM3.7の地震(深さ13km、最大震度2、長崎県は長崎市、南島原市で震度2)以来です(図4,5)。



図3 震度分布図 (観測点別、× : 震央)
28日 11時50分 M3.8

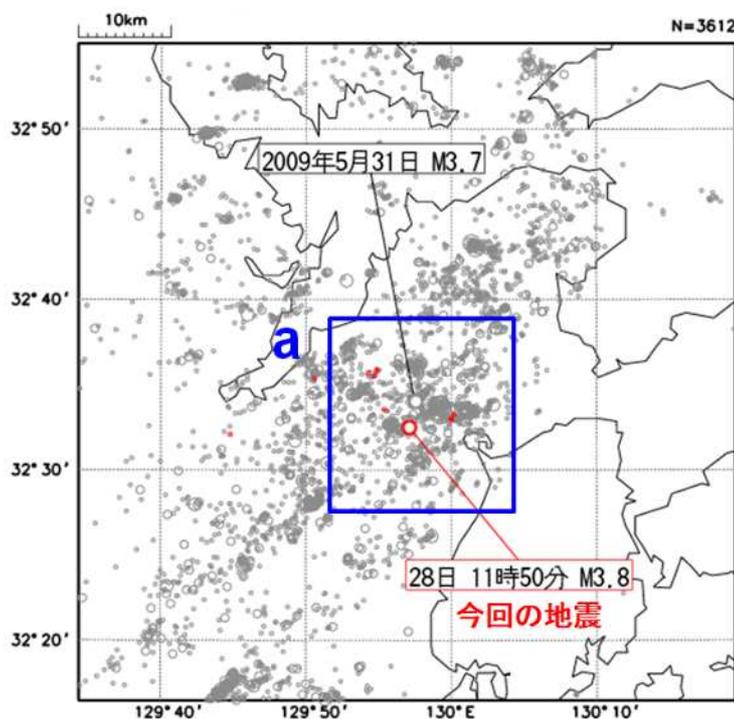


図4 震央分布図
(1997年10月1日~2017年10月31日
深さ0km~20km M 1.0)
2017年10月の地震を赤で表示

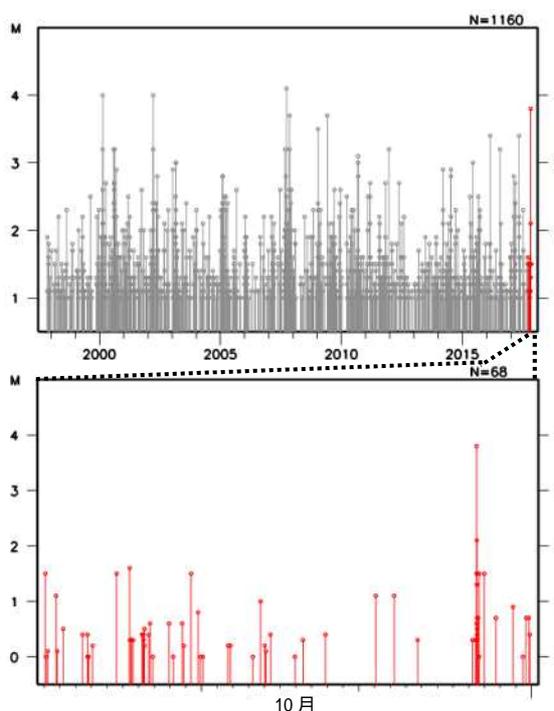


図5 図4領域a内の地震活動経過図
(上段: 1997年10月1日~2017年10月31日、M 1.0
下段: 2017年10月1日~10月31日、M 0.0)

表2 これらの地震により長崎県内で震度1以上を観測した地点

No. 3	2017年10月28日11時50分 天草灘	32° 32.4' N 129° 57.1' E 13km M3.8
長崎県	2	長崎市元町* 諫早市多良見町*
	1	平戸市志々伎町* 長崎市南山手 長崎市黒浜町 長崎市長浦町 長崎市野母町* 諫早市東小路町 諫早市堂崎町* 諫早市飯盛町* 時津町浦* 雲仙市小浜町雲仙 雲仙市雲仙出張所* 雲仙市小浜町北本町* 南島原市口之津町* 南島原市南有馬町* 南島原市北有馬町* 南島原市西有家町* 南島原市加津佐町* 南島原市有家町*

注4) 震源要素 (緯度・経度・深さ・M) は、暫定値であり、データは後日変更されることがあります。

注5) *を付した地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

津波を予測するしくみ

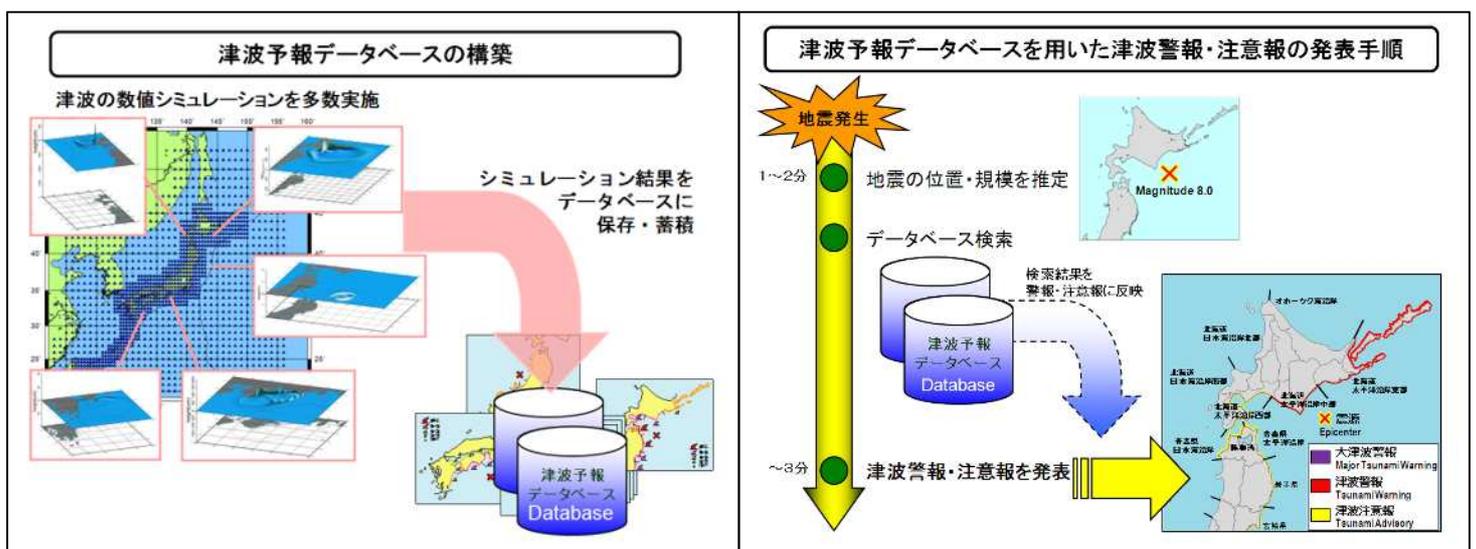
気象庁では、平成 29 年 11 月 1 日から「南海トラフ地震に関連する情報」の運用を開始しました。もし、南海トラフ沿いの広い範囲で大きな地震が発生すると、九州・山口県の沿岸に津波が押し寄せおそれがあります。しかし、地震が発生した後に津波の高さを予測しては津波警報等の発表が津波の到達に間に合いません。

そのため地震の規模と発生場所などにより、いつどこに、どのくらいの津波が来るのか、さまざまなパターンであらかじめ津波の数値シミュレーションを行い、その結果を津波予報データベースとして蓄積しています。

実際に地震が発生した時には、発生した地震の規模や震源の位置に対応する予測結果を津波予報データベースから即座に検索することで、沿岸に対する大津波警報・津波警報・津波注意報の迅速な発表を実現しています。

「津波を予測するしくみ」についての詳細は、気象庁ホームページをご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/tsunami/ryoteki.html>



「巨大」と発表されたら非常事態

地震発生時、気象庁は地震の規模や位置を推定し、そこから津波を予測します。しかし、マグニチュード 8 を超えるような巨大地震では、すぐに正確な地震の規模を推定することができないため、その海域で想定される最大のマグニチュード等を用いて津波警報の第 1 報を発表します。この場合、予想される津波の高さは「巨大」「高い」といった定性的な表現で発表します。その後、正確な地震の規模が分かった時点で津波警報を更新し、予想される津波の高さも定性的な表現から改め、従来通りの数値で発表します。

大津波警報、津波警報、津波注意報を見たり聞いたりしたら、直ちに避難！警報はより高いところへ！！

「巨大」と発表されたら、東日本大震災クラスの津波が来ると思って、避難しましょう！